

拙堂會報

第13号

2022年12月1日発行

発行所
齋藤拙堂顕彰会理事長 飯田 俊司
津市一身田豊野1406-197

拙堂を若い世代に伝える工夫

齋藤正和 1

伊勢の拙堂、江戸に遊ぶ

加藤龍宗 2

日本とロシア

飯田俊司 3

藩校有造館建学の流れ―その八

柳 檜悦

中川禎二 4

新しく理事・会員に

なっていました

持続可能な日本社会 荒木康行 5

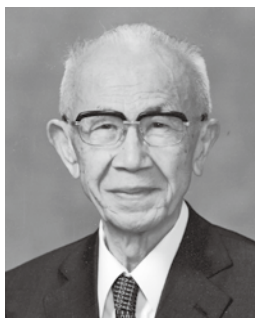
日月無私燭 志田行弘 6

令和四年度下期の行事予定 8

会員一覧 7

拙堂を若い世代に伝える工夫

顧問 齋藤 正和



前回までは郷土の生んだ偉人齋藤拙堂を顕彰する意義を、主として彼の経世済民の事績に注目し、今日の国防に関して学ぶべき事が多いことを述べた。今回は拙堂を若い世代に伝えるにはどのような述べたらよいかを考えてみたい。拙堂は江戸時代の人である。また、彼は武士であった。またすぐれた学者文人であった。その

うえ経世の志が篤かったのである。だが、江戸時代まで伝えられた日本の伝統文化と武士階級は明治維新で権力を奪取した政府によって大きく破壊された。たとえば武士の魂といわれた刀を取り上げる廃刀令である。更に昭和の敗戦により、日本の弱体化を図るGHQと国内の走狗によって、イエとムラの心温まる文化は自然環境とともに徹底的に破壊された。その結果、戦後社会は便利になったかも知れないが、「今だけ、金だけ、自分だけ」というギスギスした、混乱の時代になっている。江戸時代の人々は自然ゆたかな環境で「リサイクル」など当然のこととして、のんびりと暮らしていた。大半の武士は高い教養と道徳性によって庶民から尊敬される

存在であった。何を今更「持続可能な」というのか、全世界を支配する国際金融資本がその覇権を持続可能にするための「ルール変更」に過ぎない。そのような状況のなかで忘れ去られた齋藤拙堂を現代によりみがえらせ後の世代に伝えることに私は意義を見いだすのだ。彼こそは我々国伝統文化の荷担者であった。文化のなかでも人の心を最もよく伝えるものは言語文学、端的には「詩文」ではなからうか。心に余裕のあった江戸時代の社会の中で拙堂は人々を楽しませるすぐれた漢詩文を発表し、詩会を主宰していたので、この津だけでなく全国の人々から尊敬された。一例を示そう。拙堂は桜の時季に京都に旅行し、たまたま御所の塀の外側を歩いていたとき、御所の中の桜花が散ってきて自分の着物についた。拙堂は漢詩に詠んだ。現代語訳すれば「御所の建物は高く春霞の上にそびえ、白い塀を巡っている御溝水は清い砂の上を走っている。春風は御所と民家を区別せず、禁門の前を通る人々の着物の上に宮中の花を散らしてくる」となる。月ヶ瀬梅溪や桜花の嵐山、木曾

川の「日本ライン」を川下りしたときの紀行文をはじめ多くの詩文が人々に愛読され、戦前の中学校では各学年の教科書にそれぞれ数編は載っていた。中でも『月瀬記勝』は明治になってからもロングセラーだった。これを読んだ梅の愛好者がその季節になると月ヶ瀬に行くので東京の文壇が空っぽになったと書いた本もあるほどだ。また、中国散文評論史の著書『拙堂文話』は、近年（二〇〇七年）でも中国で出版され、あちらの専門家の間で読まれている。拙堂は漢文だけでなく日本の古典文学にも通じていて和歌も残している。それらは津藩の歌会で詠んだ作品である。漢字、漢語は中国発祥であるが我国に入ってから千年以上の時を経てすっかり日本語のなかに定着した。だから漢字漢語は日本語の根幹をなすもの。これを排除すれば我々の言語は実に貧弱なものになる。江戸時代人は漢詩文によって豊かな教養を身につけた。また拙堂は藩校有造館の督学として津藩が天下の「文藩」と称えられるように学問・文学を盛んにした。文藩とは何か。単に学問が盛んだということではない。教養人即ち心の豊かな人、自然や人情の美しさに敏感で自然や人間を愛する人々を沢山育てる藩ということだ。それに加え、自身武士であった拙堂は理想の武士はどうあるべきかを説いたのであった。

伊勢の拙堂、江戸に遊ぶ

会長 加藤 龍宗



えにしありて大人の墓前に御酒たむけ

詠い弔るふ文月の朝。

七月の暑い日の早朝、四天王寺に詣でることが近年の行事となっている、昨年と変っていたことは齋藤家の墓石に正和先生の奥方の戒名が刻まれていたことであった。私の夏は六月二十三日より始まる、沖繩忌である、この日も西南の空に祈りを捧げた。慰霊と鎮魂の暑い暑い時である。明治維新以来富国強兵政策により半世紀の間五つの大きな戦争を起こし、幾百万人の貴重な命を失い、多くの遺族を出し、近隣諸国に多大な迷惑をかけた、昭和二十年生まれの私

は戦争は知らないが父を戦争に奪われた一人として亡き人々への追悼の思いは命の限り消えることはない。

顕彰会の事であるが津市教育長森様より「わたしたちの津市」が届けられた、小学生三、四年生の社会科の副読本である、およそ五年前の事であったが前葉市長と倉田教育長（当時）と私と当会の常務理事中川様（当時、現顧問）との会談にて次回の副読本改訂には拙堂を取り上げますと約束がなされ今回実現に至ったのである。この事は望外の喜びであるが今後の顕彰会の活動の重要性を感じずにはおれない。

さて拙堂は、一八二五年（二十八歳）侍読となり（十三歳で第十一代目藩主となった高猷公の教育係）、一八二八年（三十一歳）より参勤交代に従って一年おきに江戸に出府することになった。藩主の供をし高名な学者と交わり、名代として多くの顕官等に会うことが出来、江戸在住の文人との交流により、学者としての拙堂をより成長せしめた。

江戸での詩も多く詠われている、その中から「春遊感有り」を紹介しておこう、幼少の頃より父正修に連れられて江戸の山河に春を探ねた事を思い出している詩である、老父への感謝の念、第二の故郷伊勢への思いを深くする人間味あふる温かい詩である。



理事長 飯田 俊司

日本とロシア

春遊感有り

齋藤拙堂

連日春に遊ば物華を弄し
却嘆親老天涯に在る
分明に記し得る鬢年の事
某水某丘携花を看る

毎日のように春を探して

景色を楽しんでいるが

ふりかえり思い出すのは

遠い伊勢にいる老いた親のことだ

はつきりと覚えているのは

子供の頃のことであり

あの河やこの丘に親につれられ

花を看にいったことよ

ロシアがウクライナに軍事侵攻を始めてから早や九か月、毎日ロシア軍による多数の住民被害、多くのインフラ設備や民間施設の破壊がマスコミで報じられ、国際法や国際秩序を無視した弱肉強食の帝国時代に逆戻りした観があります。一九九一年のソ連崩壊により長年に渉るロシアの圧政からようやく解放され、自由と独立を勝ち取ったウクライナの勝利を願わずにはいられません。

日本とロシアの争いは一九〇五～六年の朝鮮半島と満洲の権益をめぐる日露戦争、一九四五年八月九日、ソ連が日ソ中立条約を無視して対日参戦、六十万人弱の日本軍捕虜や民間人が過

酷で劣悪な環境下で強制労働の結果約六万人の死者を出したシベリア抑留、八月二十八日～九月九日に北方四島（択捉、国後、歯舞、色丹）を不法占拠、一方的に自国領に編入した事件などがあります。

日本がロシアと初めて争ったのは、一八〇六～一八〇七年の露光事件に遡ります。一七九二年ロシアはアダム・ラクスマンに命じて大黒屋光太夫ら三名の漂流民の送還と通商を求めて根室に来鑑。幕府は長崎での交渉を指示し、ラクスマンに長崎の入港許可証を交付しました。一八〇四年ニコライ・レザノフが入港許可証を携えて長崎に来航し通商を求めましたが、鎖国下の幕府は半年に渉って拒否し続けました。この間レザノフは幽閉に近い処遇を受けたこともあり、一八〇六年蝦夷地の幕府拠点（樺太・礼文島・利尻島など）を襲撃。その後択捉島駐留の幕府軍を攻撃したものの、幕府軍は反撃もせず惨敗し、ロシアに対する脅威を感じると共に日本の国防の重要性を覚醒させる事件となりました。以後幕府は鎖国体制の維持と国防体制の強化に務めることとなります。

いつの時代も日本にとってロシアは警戒すべき国で、この度のロシアによるウクライナの軍事侵攻は他人事とは思えません。

拙堂は海外事情を知る必要を感じ、当時の蘭学者による外国の地理、見聞録、交易文書などを参考に、国内外の地理、歴史に関する書「輞

軒書目」を書きました。ロシアに関しては桂川甫周による大黒屋光太夫から聴取した「北槎聞略」や大槻玄沢が仙台の漂流民から聞いた「環境異聞」なども読み、ロシアについては精通、

藩校有造館建学の流れ―その八

日本の「水路測量」「海図」の父

柳 榎悦

長崎海軍伝習所派遣の俊英

顧問 中川 禎二



はじめに

前号で督学齋藤拙堂の推薦で長崎海軍伝習所に派遣された堀江鋏次郎を取り上げましたが、今号では更に伝習所で訓練を受けた俊英「柳榎悦」を紹介します。

生いたち

榎悦（幼名・芳太郎）は堀江鋏次郎より一歳

「露西亞外記」（二巻）を著しましたが、残念ながら所在不明で内容も分かりません。今こそ拙堂が考えていたことを知りたいものです。

年下です。二人は同じ江戸染井の津藩下屋敷で天保三年（一八三二）に生まれ幼なじみでした。国詰めとなった父の惣五郎に従い、七歳のとき津の馬場屋敷（旧津市体育館付近）の一角に住まいします。柳家の禄高は三〇俵三人扶持の下級武士で決して裕福な暮らしではありませんでした。九才から藩校有造館の養正寮に入り、武家子弟必修の四書五経の学習、槍術・剣術などに励み、卒業した十五才に元服して「榎悦」と名乗りました。そして藩校の算術家として著名な村田佐十郎恒光の門下にはいります。そこで算術の基礎を学び、その才能を発揮して頭角を現し、嘉永六年（一八五三）には藩に命じられ佐十郎の指揮のもとで伊勢湾沿岸の測量をしています。安政二年（一八五五）二十二才の時に長崎海軍伝習所に堀江・村田共々十二名の一人として派遣されました。長崎海軍伝習所では、西洋の数学を基礎とした近代的な航海術や海防に必要な測量術を習得するとともに、ここで出会った勝海舟や五代友厚（大阪経済界の重鎮・政商）や川村純儀（後の海軍大将）との交流が、明治期の榎悦の大きな飛躍につながりました。

海軍への参画と海軍水路部の創設

明治二年榎悦に新政府への出仕の話が舞いこみます。海軍創設の要として彼の参画を求めたのは、長崎海軍伝習所での同僚で新政府の中枢にいた川村純儀と五代友厚でした。

明治三年に藩から正式に出仕が認められ上京します。

彼の役割は新政府へ諸外国から要求されている全国の沿岸測量の推進でした。イギリス鑑シルビア号と共同で行った的矢・尾鷲両港の測量のほか、「第一丁卯」「春日」などの軍艦を駆って、全国各地の沿岸測量を指揮し、我が国の水路測量の先駆者となりました。

（この時の柳の実測した原稿図は現在も海上保安庁水路部に保存されています。）

その後、彼は初代海軍水路部長となり先頭に立って測量を指揮しました。

一八七八年（明治十一年）フランス・ドイツ・ベルギー・オランダ・イギリス・アメリカの水路事業先進国の視察を行った後、「全国海岸測量十二カ年計画」を立案しました。



柳 榎悦
（やなぎならよし 1832-1891）
津藩士・海軍少将・
初代水路部長・貴族院議員

海軍はもとより海運界の発展をもたらし、ひいては国益に繋がる有力な結果、実施に移され一九一七年(大正六年)に全域達成されました。長くかかったのは、朝鮮・台湾も含めて進められた結果でここに、柳の目標は達成されました。

柳の様々な功績を讃え、一九三〇年(昭和五年)に柳樹悦胸像がつくられ十一月二日に除幕式と共に盛大な顕彰会が開催されました。胸像台下中央には柳が掲げた信念「水路事業の一切は海員の精神に依り徹頭徹尾外国人を雇用せず自力を以て外国の学術技芸を選択利用し改良進歩を期すべし」がしたためられています。これをもって柳樹悦がいかに偉大な人物であったかが窺われます。

戦後、海軍水路部は海上保安庁に引き継がれますが現在も海洋情報部庁舎内の「海洋情報資料館」に柳の海軍礼装の肖像写真と共に胸像が展示されています。

柳は、やはり師の齋藤拙堂の薫陶を受けており、経世家で、海軍水路部だけでなく様々な業績を残しています。

部長在職中に海軍観象台(後の東京天文台)を、一八七七年(明治十一年)には、東京数学学会(後の日本数学物理学会)を設立しました。一八八八年(明治二十一年)退任後の翌年水産伝習所(後の東京水産大学)を設立して水産業の振興や人材育成に努めています。真珠王として有名な御木本幸吉が漁師の人達になかなか協

力してもらえず真珠養殖に使える海がなくて困っているときに助けてくれたのもなお樹悦でした。一八九〇年(明治二十三年)には貴族院議員に勅撰され国政に携われます。

しかし翌年の一八九一年(明治二十四年)一月十五日に肺炎で亡くなりました。

あとがき

六十才で多才な人生を閉じた柳は、生前の功績により特旨を以て正三位に叙せられ海軍葬によって青山墓地に葬られました。勝海舟の筆による「海軍少将正三位勲二等柳樹悦墓」の墓碑と、それに並んで勝子夫人(講道館の創始者加納治五郎の姉)のお墓が建っています。ご親族も有名な民芸運動創始者の柳宗悦(三男)を始め、ご一統はお孫さんに至るまで多士済々のご立派な方々がおられ、樹悦の血が脈々と引き継がれています。

拙堂先生も黄泉山荘で長崎海軍伝習所へ派遣し、明治時代に活躍した柳樹悦・堀江鍬次郎ら門下生十二名に囲まれて、好きなお酒を酌み交わされていることでしょう。

参考文献

日本海軍水路部の研究・小林瑞穂著

津にゆかりのある人々・大林日出雄著

人材を生み出した風土・監修中村光司

(津市教育委員会)

ふるさと読本・伊藤印刷株式会社

新しく理事・会員に
なっていました

持続可能な日本社会

理事 荒木 康行

(株式会社百五総合研究所代表取締役社長)

長寿企業といわれる創業百年を超える企業は日本に三万三千社もある。これは世界で約八万社のうちの四十一パーセントを占めており日本は世界一の長寿企業大国である(二位は米国の二十四パーセント)。なぜ日本には長寿企業が多いのだろうか。先人の知恵や教え、変化への団結力・適応力などが影響しているのではないだろうか。

江戸時代に活躍した商人らの精神・哲学という観点からは、近江商人の「三方よし」(売り手よし、買い手よし、世間よし)が第一にあげられる。自分の都合だけでなく相手や地域社会に貢献しながらの商い(現在も滋賀県の長寿企業比率は全国上位)。伊勢商人は商才にたけ、勤勉、節約で有名だが、諸国から伊勢神宮への旅人から得る情報ネットワークの活用が伊勢商人の発展に繋がったとされる(三重県の長寿企業六七八社、総企業数に占める割合は全国上位)。また明治時代の渋沢栄一が唱えた「論語と算盤」。私利私欲に走る企業は長続きせず、企業が成長

し存続するには道德と利潤との両立が不可欠だとの考えを示している。現代のSDGs、つまり持続可能な企業や社会のあり方を見抜いた言葉である。

昨今緊迫した世界情勢が続いているが、こうした日本の文化・精神こそ、未来を切り開く知恵であろう。

日月無私燭

理事 志田 行弘

幼少の頃より、父から偉人の話をよく聞いた。三重県、特に津市では医家・国学者の谷川士清、藩校有造館督学だった齋藤拙堂のことを何度も聞いた覚えがある。小学生の頃だったので充分に理解出来ぬ内に、六〇余年の時が過ぎ、時折津センターパレス二階展示資料の茶磨山荘図に目を留める位だった。拙堂展が石水博物館で開催と知ったのは今年初の中日新聞、これは行かねばと思いつつ、そのままになり春先、パラミタミュージアムの催事ポスターで気付き、もう二、三日で終了と知りあわてて翌日に石水博物館を訪れた。普通なら三〇分位の観覧で見終る量だったが、この日は二、三時間ゆっくり何度もつぶさに拝見したというより勉強をする思いで見た。

同時に白髪端正な齋藤正和先生と飯田俊司元会長が頭をよぎり、すぐ飯田さんに連絡をした。

拙堂会への入会をである。即入会の了承を賜り、五月八日の総会に出席させて戴き、安村久仁男常務理事から多くの書籍・資料を頂戴したが、未だ充分に目を通してない。そんな折、執筆依頼があり不勉強故に齋藤先生から直にお教え頂きたいと思うことに気付いた。実は古家の座敷に拙堂先生の扁額が掛けられてあり、その昔に父から読み方、内容を聞いたはずだが恥ずかしながらその漢文が読めぬ分からぬであった。この際、意味を知り得て文章にしたいと願い、写真を撮り誠に不躰ながら齋藤先生に送ってお教えを乞うたところ、快くお受け下さり菰野町のパラミタミュージアムでお会いし、ご教授を受けることになった。有難いことだが、不思議とパラミタミュージアムに縁がある。

その扁額漢文が標題の「日月無私燭 庚申秋日 拙堂隠士」であり、齋藤先生はその漢文の出典及び解説を幾通りもの資料を付けて作成下さり、極めて詳細且つ簡明に教えて下さった。

中国は秦の宰相呂不韋（りょふい）が門下に集った食客の著作を編集した『呂氏春秋』の「去私」篇にある語からの出典とのこと。その意は「太陽や月は総ての万物を分けへだてなく光りを照らし、ひとつの物にだけ私心を持って照らすことは無い」という。要するに太陽や月の様に満遍無く光を当てるのが大切で、一物一部にだけ依怙（いこ）（えこひいき）をしては無い。何事も公平無私の心を持って過しなさい

ということであろう。

そして齋藤先生は『呂氏春秋』より古く、既に四書五経の一つ『礼記』の「孔子閒居」篇には「日月無私照」の語があると、別の資料を見せて下さった。孔子が家でひっそりとしていた時、弟子の子夏が傍らに居て尋ね聞いた問答集である。子夏が「禹・湯・文王という三人の王の徳は、三無私の道を頂いたとのことですが、どういうものを三無私というのですか」と聞いたところ、孔子曰く「天は私情をもって万物を覆うことをせず、地は私情をもって万物を載せることをせず、月日は私情をもって万物を照らすことをしない。この三つの道を頂いて天下の人民をいたわることを、これを三無私というのである」と説いた。つまり三無私とは「天と地と日月の三つのものは徳を施すにあたって公平であって私心が無いこと」である。

人は人生を歩むに当って、この様な志を持って一生を送りなさいと、我が古家の額は拙堂先生が語り問うておられるのだと、自らの六〇年、七〇年余を振り返り、これからの人生も心して歩まねばと思う。拙堂先生、齋藤先生に感謝し、父やご先祖に感謝しつつ、この文章を書く機会を与えて下さった編集子の皆様にも感謝してつたない一筆を擱きたい。



令和四年度下期の 行事予定



齋藤拙堂顕彰

第七回「俳句・短歌」の募集



十月一日発行の津市広報と、十月十一日付で事務局から会員の皆様にお知らせしたように第七回・齋藤拙堂顕彰「俳句・短歌」を募集しました。

応募期限は、令和四年十月一日（土）～令和四年十二月十日（土）まで。

応募方法

○官制はがき一枚に五作品。自作で未発表の物に限ります。

○俳句・短歌いずれも一人五作品以内とします。

○選者が添削する場合があります。

○住所・氏名・年齢・電話番号・郵便番号を明記。

俳句・短歌担当 山崎満世理事

☎059-255-2515

優秀作品は令和五年三月十九日（日）の第七回齋藤拙堂顕彰吟道大会で表彰し吟詠されます。

賞は津市長賞・津市議会議長賞・津市教育長

賞・齋藤拙堂顕彰会会長賞の四賞です。選者は、俳句は山崎満世理事、短歌は三芳公子で、それぞれ津市発行「津市民文化」の俳句・短歌欄の選を担当しておられます。

齋藤拙堂顕彰

『第六回小中学生書道展』



令和五年三月三日（金）から三月五日（日）まで、津リージョンプラザ三階の生活文化情報センター（展示室）で、齋藤拙堂を顕彰する県下の小中学生書道展を開催します。

展示時間は午前九時三十分から午後四時三十分。最終日は午後二時。

応募要項

対象Ⅱ小学生・中学生の毛筆作品

作品の大きさⅡハツ切り・縦形式のみ

課題Ⅱ小一・おしろ 小二・みどり

小三・せつどう 小四・入徳門

小五・有造館 小六・拙堂文話

中学生・月瀬記勝

書体Ⅱ小学生は楷書

中学生は楷書または行書

一人一点

名前の書き方Ⅱ小学一、二年はひらがな

三年以上は漢字。

学年の書き方Ⅱ小一～中三、又は一年～六年、中学生も一年～三年のどちらでもよい。

行書作品は名前も行書

応募期間は、令和四年十二月一日（木）から令和五年一月十五日（日）

優秀な作品には津市長賞・津市議会議長賞・津市教育長賞・齋藤拙堂顕彰会会長賞等が贈られ、その表彰は令和五年三月五日（日）に行われます。

書道展担当 稲垣武嗣理事

☎059-224-3670

齋藤拙堂顕彰第七回吟道大会

令和五年三月十九日（日）、津市吟剣詩舞道連盟主催・津市共催・齋藤拙堂顕彰会後援の第七回齋藤拙堂顕彰吟道大会が開催されます。

なお、当日「齋藤拙堂顕彰・俳句・短歌」の表彰式を行い、優秀作品が吟じられます。

入場は無料。ご来場を歓迎します

日時 令和五年三月十九日（日）

午前十一時三十分から四時三十分

場所 津市大門七―十五

津センターパレス二階

中央公民館ホール

会員一覧

令和四年
十一月二日現在● 団体会員
(順不同・敬称略)

株式会社百五総合研究所	株式会社せにやH・C
伊藤印刷株式会社	株式会社ヘリテッジホーム
二松学舎大学松苓会三重	デザイン
県支部朋友会	株式会社辻工務店
株式会社百五銀行	三重トヨペット株式会社
公益社団法人日本吟道学院	一般財団法人三重県環境保全
水心会	事業団
三重交通株式会社	三重県高等学校国語教育
百五リース株式会社	研究会
公益社団法人日本詩吟学院	アルコ株式会社
津岳風会	有限会社コスモス
岡三証券株式会社津支店	おぼろタオール株式会社
株式会社ZTV	佐藤ライト工業株式会社
百五証券株式会社	丸ノ内ビル管理株式会社
株式会社刀根菓子館	株式会社中部都市建築設計
錦水流淡翠吟詠会	事務所
水洋流詩吟朗詠会	株式会社マルヤス
株式会社百五カード	株式会社アイケーディ
藤貴流扇和会三重県本部	株式会社松阪鉄工所
ミフジ株式会社	株式会社丸中産業
比佐豆知神社	株式会社第一ビル
社会福祉法人三鈴会くら	
保育園	
株式会社ヘルシーファミリ	
井村屋グループ株式会社	

● 個人会員
(順不同・敬称略)

青木 美樹	内田 観成	喜田 恭子	志田 行弘	種田 啓子	西川 幾子	水谷 千春
赤塚 聰	梅田 安春	北澤 浩二	嶋田 浩	塚澤 正	西谷 嘉修	見並 勤子
赤野 多恵	浦出 雅人	紀平 奉剣	下野坊順恵	柘植 信子	長谷 茂	三芳 公子
浅田 剛夫	大井 和人	紀平 嘉信	菅野 克也	辻 保彦	畠山 彦和	村田 修
東谷きみ子	岡 美代	草深久美子	杉浦 雅和	津村 観耀	林 朝子	森永 昌雄
阿部みどり	(竹村観扇)	楠 久子	村主 英明	寺尾 正紀	林 忠男	森永 文夫
荒木 康行	大倉邦太郎	雲井 敬	鈴木 武史	寺田 観啓	林口 朋一	森永 千寿
荒木田 豊	小川 直紀	雲井 純	鈴木 裕志	富田 陽子	久岡 克美	森永 敏江
飯田 俊司	小川 真史	栗真 恵光	高岡 弘典	豊田 龍倭	人見 一晴	安村久仁男
飯田 俊英	荻原くるみ	向坂 和也	高沖 芳寿	内藤 奉悠	福 正直	柳川 隆一
飯田 泰之	奥田 則子	古海 玲子	高倉ふじ子	中川 禎二	藤貴 静扇	柳谷 剛
池川 誠一	海住 禎人	小林 一成	高山 尚	中川 弘文	淵脇 實博	山岡 道弘
生田 伸介	栢原 良	小林 彰	高橋 正浩	長嶋紀美子	福沢 紳一	山上 和美
石野 孝廣	勝眞 千代	國分 昭男	瀧川 茜	中津 忠夫	福島 鎮子	山家 泉
石渡 教雄	葛山 丕	児玉 進	竹内 雅明	中野 和代	福永 昭	山崎 計
板谷ツヤ子	加藤 恒二	小林 貴虎	辰己 清和	中野 清	別所喜三生	山崎 満世
伊藤 英次	加藤 栄	齋藤 正晃	田中康一郎	中村 昭子	細谷 正吉	山本三千代
伊藤 歳恭	加藤 徹也	齋藤 正和	田中 幸子	中村 誠	本田三千子	山本 有人
伊藤 武治	加藤 龍宗	齋藤 正人	田中 智之	中村美知子	榎岡 洋子	米田 豊山
稲垣 武嗣	金児 玲子	齋藤佐千子	田中 秀人	長合 教実	増田 迪子	米田 嬌山
稲葉 邦成	川合 俊平	酒井 宏明	田邊 礼子	南部 昌己	増田 幸恵	若林 宏幸
井ノ口岳彦	川西みどり	坂部 竜也	谷 伸司	中西 容聖	松井 幸子	芳野 貴典
井ノ口輔胖	河村ツタ子	佐々木政彦	谷口 定男	榎原富美子	松村 勝順	吉田 壽
上島 正明	木崎 真陽	澤口 真理		西岡 慶子	水谷 忠文	